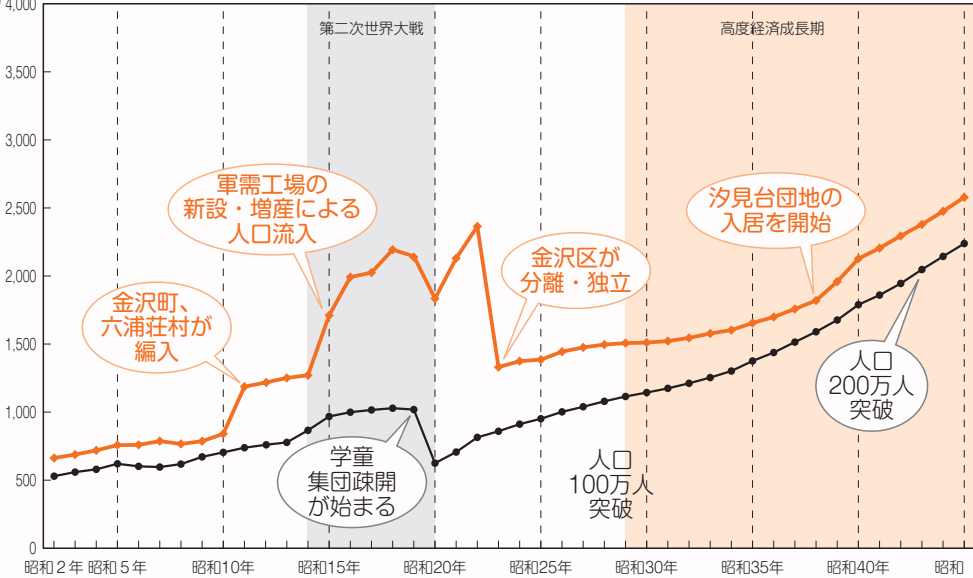


人口

◆横浜市と磯子区の人口の推移

〔横浜市〕

(千人) 4,000



区制施行により鶴見区・神奈川区・中区・保土ケ谷区・磯子区が誕生(昭和2年)

ニューヨーク株式大暴落、世界恐慌始まる(昭和4年)

港北区・戸塚区が誕生(昭和14年)

横浜大空襲(昭和20年)
西区誕生(昭和19年)
南区誕生(昭和18年)

磯子区の一部が分区し、金沢区が誕生(昭和23年)

テレビ放送開始(昭和28年)

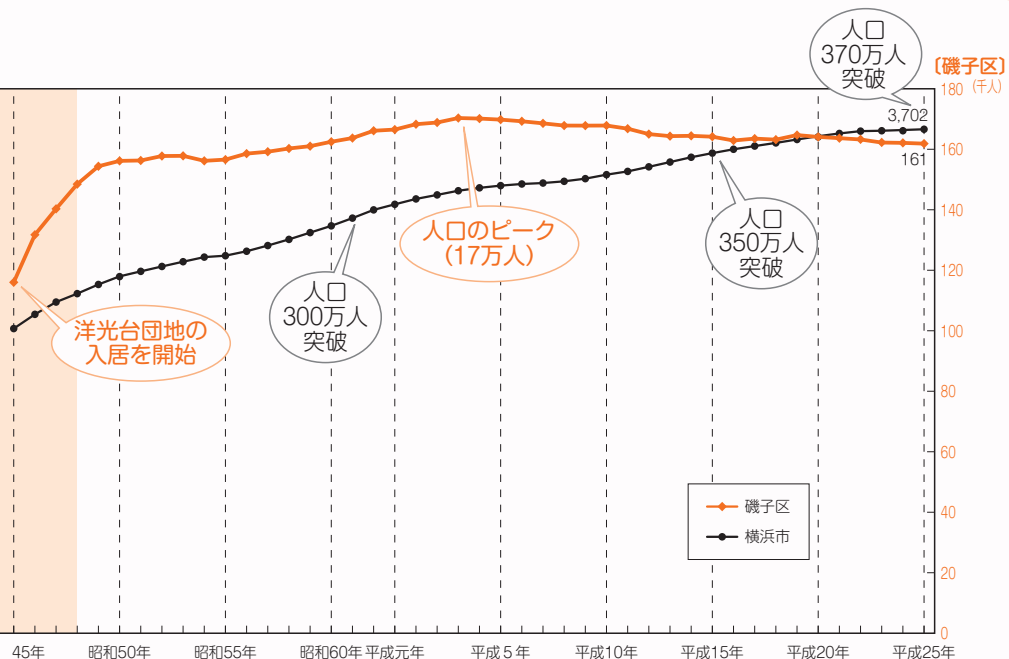
横浜開港100年(昭和33年)

マリントワー完成(昭和36年)

東京オリンピック開催(昭和39年)

港南区・旭区・緑区・瀬谷区が誕生(昭和44年)

※昭和2～9年は公簿調査による戸籍人口、昭和10年以降は国勢調査及び推計人口調査によります。ただし、昭和5年は国勢調査、昭和16、23年は常住人口調査、昭和19～21年は人口調査によります。



区のマスコットキャラクター「いそっぴ」制定(平成23年)
 東日本大震災(平成23年3月11日)
 横浜開港150周年(平成21年)
 磯子区制80周年(平成19年)
 みなとみらい線開通(平成16年)
 2002 FIFAワールドカップ日韓開催(平成14年)〜決勝戦は横浜で
 磯子区新総合庁舎が完成
 横浜国際総合競技場オープン(平成10年)
 磯子区制70周年(平成9年)
 青葉区・都筑区が誕生(平成6年)
 横浜ランドマークタワーオープン(平成5年)
 金沢シーサイドライン開通、横浜ベイブリッジ開通(平成元年)
 磯子区制60周年(区の木「梅」、区の花「コスモス」)
 栄区・泉区が誕生(昭和61年)
 区のシンボルマークを制定(昭和58年)

横浜スタジアム完成、大通り公園開園(昭和53年)
 磯子区制50周年(昭和52年)

JR根岸線が全線開通
 石油危機(洗剤・トイレトペーパー不足が深刻化)(昭和48年)

洋光台団地の入居を開始

※各年10月1日現在。ただし、昭和2～4年、6～9年は12月31日現在、昭和18年は12月1日現在、昭和19年は2月22日現在、昭和20年は11月1日現在、昭和21年は4月26日現在、昭和23年は8月1日現在。

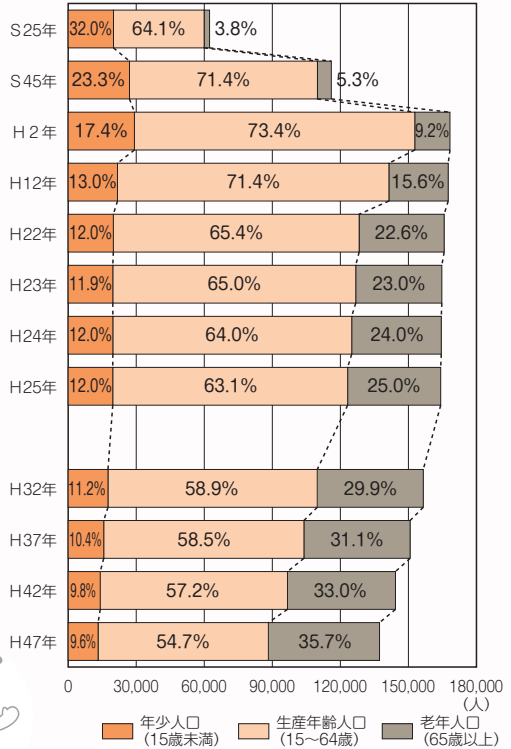
◆年齢三区分別人口の推移 ～少子高齢化がさらに進行～

年少人口(15歳未満)の割合は低下傾向で推移し、平成2年には総人口に占める割合が20%を下回りました。平成17年からは12%前後で推移していますが、少子化が進行している状況といえます。

一方、老年人口(65歳以上)の割合は、増加傾向で推移し、磯子区では平成22年に総人口に占める割合が20%を超え、その後も増え続けています。平成25年には区民の4人に1人が65歳以上の高齢者となっています。

現在25.0%となっている磯子区の老年人口の割合は、2015年(平成27年)には約27.5%、2020年(平成32年)には約30%となる見込みだよ。

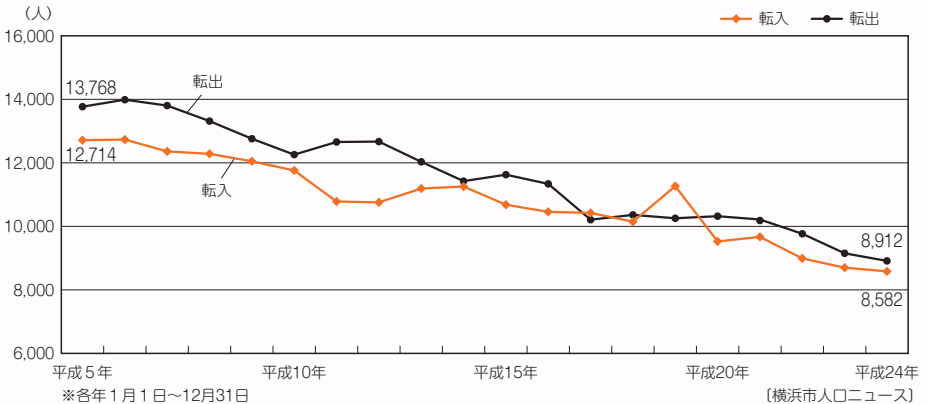
【資料】横浜市将来推計人口



※各年国勢調査、H12年以降は登録人口(各年9月30日現在)により掲載

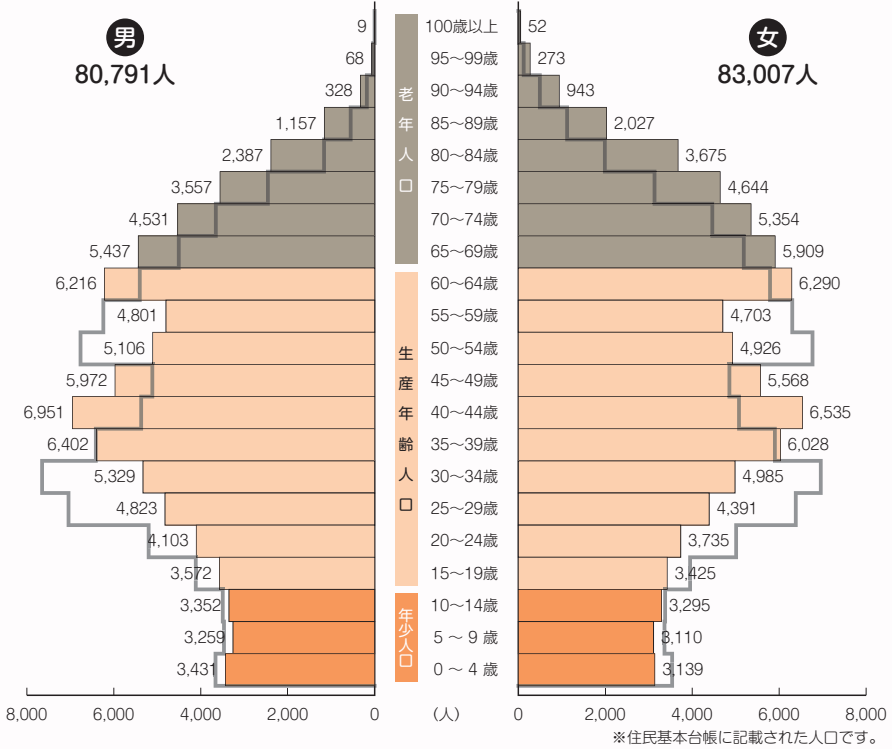
◆人口異動の推移(磯子区)

〈転入・転出の推移〉～ここ数年は転出超過傾向～

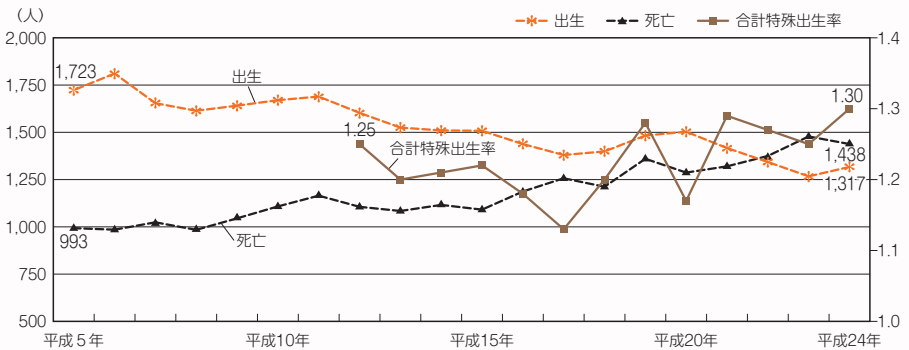


◆人口ピラミッド(磯子区)

平成25年9月末日現在
 ※ □ は平成15年9月末日現在



〈出生・死亡の推移〉～出生者数を死亡者数が大きく上回る～



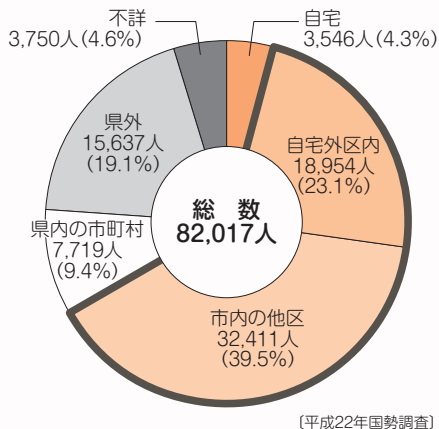
※各年 1月1日～12月31日

※合計特殊出生率は、1人の女性が一生に産む子どもの平均数です。

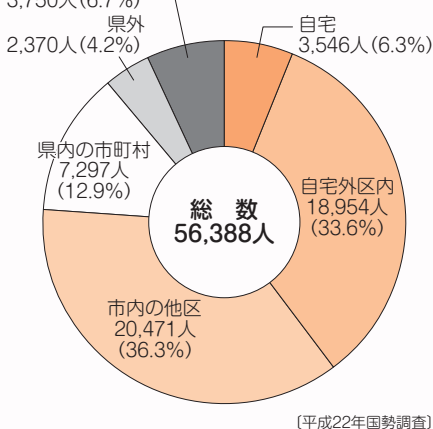
※年齢15歳～49歳の年齢5歳階級ごとに算出した出生率の合計で、平成12年～24年までの数値を掲載しています。

(横浜市人口ニュース)

◆磯子区民の通勤・通学先 (15歳以上)



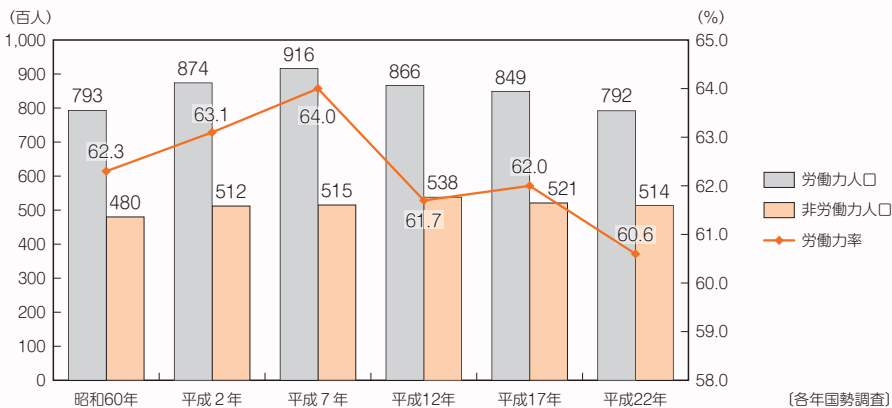
◆磯子区へ通勤・通学する人の住所 (15歳以上)



自宅で働く人を除き、市内で従業・通学する人の割合は、磯子区では62.6%(全市52.5%)で18区中1位だよ。(平成22年10月1日現在)

◆労働力人口 ～磯子区は大幅に減少～

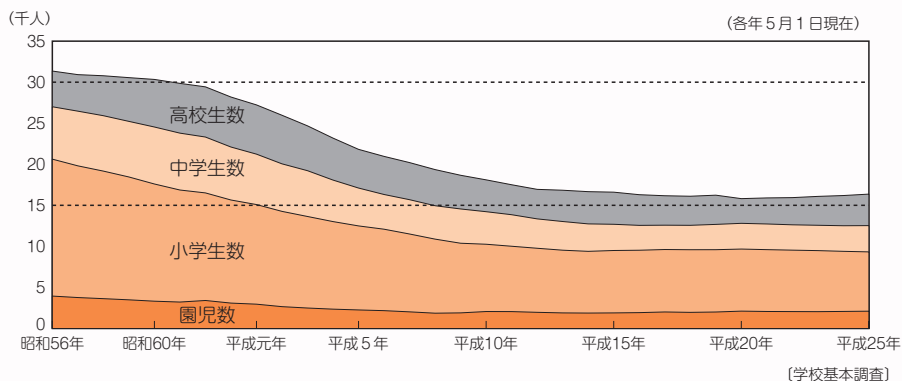
労働力人口とは、満15歳以上の人口のうち、就業者と完全失業者(就業していないが、就職活動をしている失業者)の合計のことをいいます。磯子区の労働力人口は5年前と比べ6.7%も減少(全市1位)しており、市全体でも戦後初めて減少しました。



※昭和55年以前は、人口50万人以上の大都市等に限り集計・公表されており、磯子区の数字は集計されておりません。

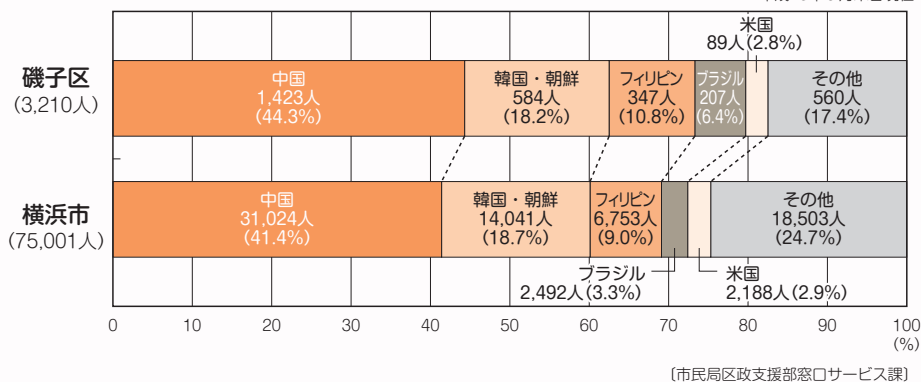
◆園児・児童・生徒数の推移(磯子区)

平成25年は園児2,109人、小学生7,223人、中学生3,119人、高校生3,838人、合計16,369名となっています。ピーク時(昭和56年、合計31,357名)と比べてほぼ半減しており、明らかな少子化傾向が見られます。



◆外国人人口 ～東南アジア諸国が7割超～

平成25年9月末日現在



コラム1

人口いろいろ

推計人口・・・直前に実施された国勢調査の人口を基に、その後の出生・死亡・転入・転出数等を加えて推計した人口で、表やグラフ等の資料に「**1日現在**」と標記されています。

登録人口・・・住民基本台帳に記載されている人口で、表やグラフ等の資料に「**末日現在**」と標記されています。